

# 21PO-pm430

## 武庫川女子大学薬学部の地域連携活動への取り組みについて

○今井 美穂<sup>1</sup>, 競 和佳<sup>1</sup>, 政田 啓子<sup>1</sup>, 村田 成範<sup>1</sup>, 木下 健司<sup>1</sup> (武庫川女大薬)

【目的】日本は超高齢社会に突入し、20年後には3人に1人が65歳以上になると予想される。武庫川女子大学の地域社会連携推進の援助を受けて、65歳以上の高齢者の割合が35%を超える近隣の浜甲子園団地に活動拠点を平成24年度に設け（健康プラザはまこう）、薬学生と地域住民とのふれあい活動を開始した。その過去6年間の活動について今回報告する。

【方法】薬学科5年次学生の卒業研究として毎週木曜日の約2時間、活動拠点の「健康プラザはまこう」で一般的な健康相談及び薬に関する相談を受けた。具体的には、来訪者の体重・身長測定、血圧測定を実施し、毎回記録・管理することで生活面、食習慣など様々な面からアドバイスをした。専門的な知識を要する相談内容に関しては実務家教員の協力を受けた。平成28年からは、薬の服用方法、熱中症やインフルエンザの予防など薬や健康に関するテーマで研究発表を自治会の集会所で実施した（サイエンスカフェ in はまこう）。テーマの選択、ポスターや配布資料の作成は学生達が行い、毎回10数名の地域住民の参加者に対し、10分程度のプレゼンテーションに取り組んだ。また発表の最後には次回のテーマに関する希望や発表内容の分かりやすさについてのアンケート調査も実施した。

【結果・考察】平成24年から今日までの活動を通して、当初に比べ地域住民の参加者数に増加がみられ、また健康に関する個人的な相談や薬に関する質問も増えるなど、地域住民との信頼関係が強まった。ところが、同時に年齢層の偏りや新規参加者の減少が見られ、今後、住民の理解を深めることが課題である。薬学生には実務実習での経験を実践的に活かす機会として有意義な研究テーマであり、薬学教育の一端として今後も本テーマの社会連携活動を継続する。